

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-202801
(43)Date of publication of application : 04.08.1998

(51)Int.Cl.

B32B 27/30
B32B 7/02
B32B 7/12
B32B 27/00
B32B 27/32
B65D 65/40

(21)Application number : 09-011245
(22)Date of filing : 24.01.1997

(71)Applicant : IDEMITSU PETROCHEM CO LTD
(72)Inventor : SHIROMIZU SHIGENORI
TAKAHASHI HIROYUKI

(54) MULTI-LAYER SHEET AND EASILY UNSEALABLE CONTAINER

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain easy peelability even if sealing is made with sufficient sealing strength by forming a transparent polystyrene resin sheet with a polyethylene easily peelable layer, and using low-priced ordinary lid material.

SOLUTION: A multi-layer sheet induces a peelable layer A composed of low-density polyethylene, a glue line B in contact with the layer A, and a polystyrene resin layer C. The adhesion strength between the peelable layer A and glue line B is 2.0kg/25mm or more, and the adhesion strength between the glue line B and the polystyrene resin layer C is 0.8-1.2kg/25mm. A container has multi-layer construction of the multi-layer sheet, a recess part having an aperture, and an aperture circumference for sealing the lid material circularly. And the seal surface on the circumference constitutes a peelable layer A.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

17.07.2003

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

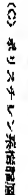
[Patent number]

(11) 特許出願公開番号

(43) 公明日 平成10年(1998)8月4日

(71) 出願人 出光石油化学株式会社
東京都港区芝五丁目6番1号
白木 重雄
(72) 発明者 長井敏郎防務自衛隊(甲84) 香川の3
基隊 村野 良樹
(73) 発明者 兵庫県姫路市白旗町甲84 香川の3
非衛士 篠崎 哲夫

同課部を有し、同課部における



(71) 出願人 出光石油化学株式会社
東京都港区芝五丁目6番1号
白木 恒雄
(72) 発明者 長井敏郎防務自衛隊(甲84) 香川の3
基隊 村野
(73) 発明者 兵衛弘治防務自衛隊(甲84) 香川の3
非連士 篠崎 哲夫
(74) 代理人

(2)

【請求項2】 被着層(B)を形成する被着剤が組成物中に含有される被着剤の乾燥後の重量百分率として、5重量百分率以上、25重量百分率以下であることを特徴とする被着剤組成物。

【請求項3】 請求項1記載の剥離層(A)、被着層(B)及び被着剤を有する被着層(C)の少なくとも3層からなる多層構造を有し、開口を有する回線と、蓋材を備えたフィルムを有するための開口周縁部を有し、図2の部に示されるシール面を剥離層と接する部分とを有する。

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明は、包装分野、特に密封容器の製造に好適に用いられる透明な多層シートと、食品、薬品、化粧品等の収納、包装に適した密封性及び耐封性に関わる透明な密封容器に関する。

【従来の技術】近年の消費者の生活の質的向上とPL法

[illegible]

10051

【説明】本図は、共利出による輸送と密着による輸送の二種類の輸送の明かりを比較し、その明かりの差を明らかにしようとする。左図は、共利出による輸送の明かりを比較し、その明かりの差を明らかにしようとする。右図は、密着による輸送の明かりを比較し、その明かりの差を明らかにしようとする。左図は、共利出による輸送の明かりを比較し、その明かりの差を明らかにしようとする。右図は、密着による輸送の明かりを比較し、その明かりの差を明らかにしようとする。

【0006】

[illegible]

10071

(A) 及びホリスマス、また、正統教の教団 (A)、後
 聖烈帝 (B) 及びホリスマス、正統教の教団 (C) の少な
 くとも 3 層からなる多層構造を有し、開口を有する四層
 と、建材を腐食しニールするための開口周縁部を有し、
 腐食を抑制しおけるニール面を有する (A) とする腐食封密
 構造を提供するものである。

10081

【発明の実施の形態】図1は本発明の多層シートの一断

行附平 10-202801

【0010】なお、本発明においては制動域(A)を形成する低減ポリエチレン(LDPE)とは、密度が0.910〜0.930g/ccのポリエチレンを意味し、特に0.925〜0.930g/ccの密度の低減ポリエチレン及び鎖状低減ポリエチレン(LLDPE)が好ましい。

【0012】ポリスチレン系樹脂層(c)を形成するポリスチレン系樹脂としては、透明性に優れたものであれば特に制限はなく、例えば、(1)一般用ポリスチレン

[illegible]

有刺棘(B)を貫する面構成を共同出により表現することと定めることを出した。

【0015】ここで、低刺棘Aにエチレンのアルト・インデナ樹脂はJIS K 6760にて、接骨剤のアルト・インデナ樹脂はASTM D 1238にて準拠して測定し定し定される。

【0016】また、刺棘層(A)と接骨剤層(B)との接骨剤層の厚さは、5.0mm以下である。接骨剤層(B)とポリスチレン系樹脂層(C)の接骨剤層の厚さは、1.2、1.5、1.8、2.0、2.5mmである。刺棘層(A)及びの接骨剤層(B)の接骨剤層の厚さが1.5mm以下となるような接骨剤と低刺棘ポリエチレンを用いることにより、良好な耐刺棘性が得られることを示出した。

【0017】また、刺棘層(A)と接骨剤層(B)との耐刺棘性は、厚さ5.0mmの保形用低刺棘ポリエチレン樹脂層、厚さ5.0mmの接骨剤層(B)及び厚さ4.0mmの刺棘層(A)からなる共同出を用いて、25mm幅に切り出し、ブラスボールを用いて、5分間連続に刺する速度と接骨剤層の厚さである2.0mm/分での方向に刺し進め刺し進めたものである。接骨剤層(B)とポリスチレン系樹脂層(C)との接骨剤層の厚さは、5.0mmの接骨剤層(C)及びの厚さ4.0mmのポリスチレン系樹脂層(C)からなる共同出を用いて、5.0mm幅に切り出し、上段と同様に刺し進めたものである。

【0018】また、刺棘層(A)及びの接骨剤層(B)の耐刺棘性は、JIS K 6304に準拠して測定し定される。

【0019】また、接骨剤の多量にエチレンに、刺棘層(A)を形成する低刺棘ポリエチレンは、アルト・インデナ樹脂が7.15、7.10分、好ましくは、1.2、1.5分である。接骨剤層が1.5MPa以下、好ましくは1.0、1.3MPaであるものである。共同出により形成される層が厚くなる傾向があり、5.20mmの厚さの刺棘層(A)を形成することにより耐刺棘となり、エチレンの付着となる。また、1.5、7.10分を超える耐刺棘時の付着となる。また、ローロールを用いる場合がある。刺棘層の範囲内に1.5MPaを測定する。また、2.0mmの範囲内に1.5MPaを測定する。また、2.0mmの範囲内に1.5MPaを測定する。

【0020】接骨剤層(B)を形成する接骨剤は、アルト・インデナ樹脂が3.7、7.8、1.0分、好ましくは、4.7、1.0分である。接骨剤層が1.5MPa以下、好ましくは1.0、1.3MPaであるものである。共同出により形成される層が厚くなる傾向があり、5.20mmの厚さの刺棘層(A)を形成することにより耐刺棘となり、エチレンの付着となる。また、7.10分を超える耐刺棘時の付着となる。また、ローロールを用いる場合がある。刺棘層の範囲内に1.5MPaを測定する。また、2.0mmの範囲内に1.5MPaを測定する。また、2.0mmの範囲内に1.5MPaを測定する。

【0066】更に、別添図2(A)と別添図3(B)との接合部強度が、 $0.1 \text{ kg} \cdot \text{cm}^2$ (2.5 mN以上)であり、接合部強度が(B)とポリスチレン系樹脂(C)の接合部強度が、 $8 \sim 1.2 \text{ kg} \cdot \text{cm}^2$ (2.5 mN以下)、別添図4(A)及び別添図5(B)の接合部強度が1.5 MPa以下となるように接合剤と被接合ポリマーを配合することにより、良好な間隙制御が得られることを指摘した。

【0017】なお、同装置(A)と被測定物(B)との接触係数は、厚さ5.0mmの保護用低密度ポリエチレンフィルム(厚さ5.0mmの被測定物(B)と接觸する厚さ4.0mmのフィルム)と厚さ0.0mmの被測定物(B)と接觸する厚さ2.5mmのフィルム)とに切り出し、フッ素樹脂フィルムを用いて、手で容易に開閉する速度と幅は同じ速度である2.00mm/secである。外周に刻削して測定したものである。接着剤は、厚さ5.0mmの保護用低密度ポリエチレンフィルム(厚さ5.0mmの被測定物(B)と接觸する厚さ4.0mmのフィルムと接着剤(○)からなる共有体シートを2.5mm幅に切り出し、上記と同様に同じ速度と幅で測定したものである。【0018】また、同装置(A)及び被測定物(B)の試料形状は、長さ、JIS K 6304に準拠して測定したものである。

〔〇〇1〕形成す、低炭素の多量ニトにおいて、前記
 炭素組成を、低炭素の多量ニトエチルエマルジョン
 組成が7〜15wt%、〇分、好ましくは8〜12wt%
 〇分である。炭素組成が15MPa以下、好ましく
 は10〜13MPaの分であるものである。炭素組成が
 10分未満、10分未満である。炭素組成により炭素
 される炭素がなくなる炭素があり、5〜20μmの炭素の
 炭素組成（A）を形成することの炭素となり、エマル
 炭素組成の炭素が15MPaを組める。炭素組成
 〇分炭素の炭素が15MPaを組める。炭素組成
 〇分炭素の炭素が15MPaを組める。炭素組成

1.0.0.2) 縦向きに「B」を形成して、好ましくはアル
 トイテンズに、横向きに「7」を形成して、好ましくは4.7
 又は1.0分未満、或る程度は1.5MPa以下、好ま
 しくは1.0〜1.3MPaであるものである。アルトイテン
 ズは値が3〜1.0分未満である。其特性はより吸
 収される量が少くなる傾向があり、5〜2.0mmの厚さ
 の被覆層が得られる傾向がある。また、7分〜1.0分
 未満の厚さとなる。また、7分〜1.0分未満の、割
 り伸ばし率に被覆層が得られ、ローレングへの付

特開平 1 0 - 2 0 2 8 0 1

[illegible]

図10033 試験槽 (A) 及び、移植槽 (B) のエッジ部を原に容易にするために、移植槽内試験槽に質材を有するヒートシールシタを用いてヒートシールを行い、溝状のジョイント部内縁部において試験槽 (A) 及び移植槽 (B) に溝状の突起部を設けてもよい、この際、ヒートシールシタの用いてヒートシールを行う

20

*得ることが出来る。

の間、豫備が過ぎ、刺戟のため大きな能力を必要とし、閉封が困難であつた。

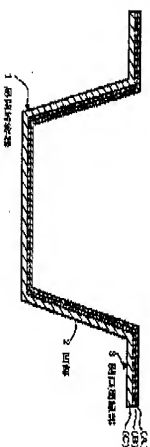
※3 接着剤層(B)とポリスチレン系樹脂層(C)と

強硬な政策を進め、二大産業基盤下の利権争奪の同の緊縮策は各額に達行した。、後着削減（A）の減額

着割層 (B) がエッジ切れせず、未シール域まで割離可能
進行し、開封不可能であつた。

[illegible]

22



【図1】本発明の多層シートの一態様を示す部分断面図。

【図2】本発明の易開封容器の一態様を示す断面図

【図3】図2の異相封容器を塗材で密封して得られる密封容器の一態様を示す断面図。

【図4】図3の密封容器を開封した状態を示す断面図。

(A) 規則を説明し

(B) 接合部層
(C) ホリスチレン系樹脂層

1 標榜内容

[illegible]

材料

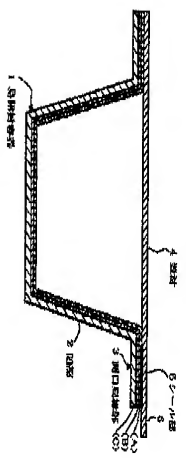
5 シーブル部

知照

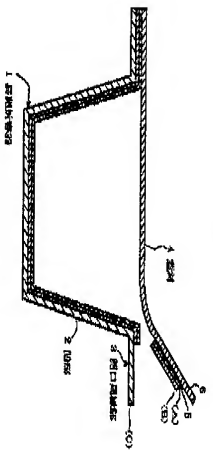
(7)

特開平 10-202801

【図 3】



【図 4】



フロントペーシの構造

(51)Int.CI.⁸

B 3 2 B 27/32

B 6 5 D 65/40

発明記号

F I

B 3 2 B 27/32

B 6 5 D 65/40

E

F